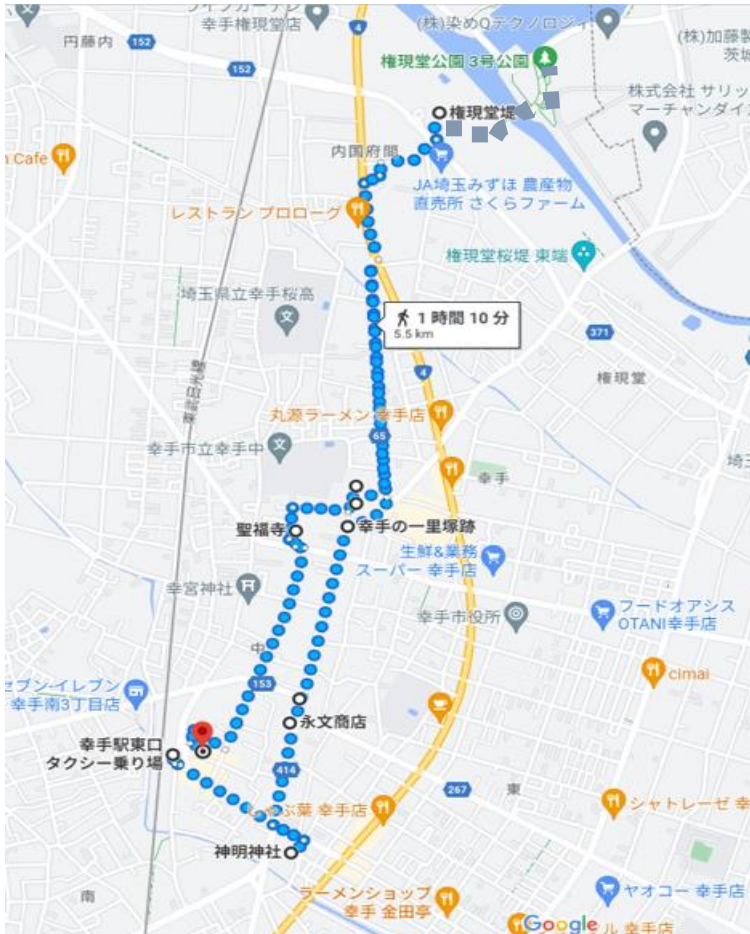


2024年10月4日(金)、前日からの変わりやすい天候が心配で、一時小雨にも遭いましたが、まずまずのお天気の中、ハイキングを10名の参加で行ってきました。

3月の杉戸宿に続き、今回は埼玉県に入って5番目の宿場「幸手宿」と権現堂堤に広がる一面満開の花、曼珠沙華を楽しんできました。

コースは下図の青点線のルートでした。



10:10 幸手駅にて集合



10:15 おしゃれな幸手駅の外観(権現堂堤の桜にちなみ外壁には桜の花びらが散りばめられている。



歩道の手すりに金メダリストの「高橋尚子」、「井上康生」の手形とサインがありました。

「手形」はハッピー(幸せ)ハンド(手)で「幸手」との事。



10:20 一色稻荷神社(陣屋稻荷)、幸手城跡

幸手城の跡は何もなく、「一色稻荷神社」は、別名・陣屋稻荷と呼ばれ、かつては幸手城の一角に祀られていた氏神であったとのこと。



駅前通りを次の神明神社へ向かう



10:15 明治天皇行在所跡碑
明治 14 年(1881 年)と明治 29 年
(1896 年)の 2 回、明治天皇が行
幸した際、幸手に滞在したことを
伝える碑



10:25 神明神社
この辺りが、幸手宿の南側
(江戸方面)入口にあたる場所。
神明神社は、江戸中期に建立された
神社。

10:30 古い造りの旧家
幸手宿は約 1km、最盛期の家数は
962 軒で人数は 3,937 人とのこと。
本陣 1 軒、脇本陣 1 軒、旅籠も多く、
日光街道では千住宿、越ヶ谷宿に
次ぐ 3 番めの規模。街道沿いに
旧家が並ぶ。



10:35 永文商店



江戸時代には、松尾芭蕉と弟子の河合曾良(そら)が、おくの細道
紀行で幸手宿に立ち寄り。「永文商店」の建物側面にはその道中の
様子が線画で描かれていた。

下の赤みがかったトタン部分に、芭蕉の「幸手を行かば 栗橋の
関」と、曾良の「松杉を はさみ揃ゆる 寺の門」句が描かれている
(とのこと)。

街道沿いの商家は、間口が狭く奥行が長い。
永文商店も同様で、建屋の横にレールがあり、手前の店舗と
奥の倉庫間の商品運搬にトロッキを走らせたようである。

10:40 ポケットパーク(問屋場跡)で小休止
小雨が降ってきたため、休憩と傘の準備を行なう

ここは宿場町時代の「問屋場」跡地で、ポケット
パークと称する小さな公園になっている。



10:50
日光街道を一里塚跡方
向へ

10:55
「幸手の一里塚跡」の碑

日本橋から 12 里 (約 48 km) 示す一里塚





11:00 雨が降ったりやんだりの中、権現堂公園へ向かう



11:20 やっと権現堂公園に到着



権現堂堤には真っ赤な曼珠沙華が咲いていました。今年猛暑のせいで、咲くのが遅かったようです。

11:30 花を見るのもそこそこに、権現堂第3公園にある四阿へ直行



約1時間の昼食休憩



12:25 展望台より権現堂川(行幸湖)を見る





12:35 権現堂土手の曼珠沙華



真っ赤な曼珠沙華の中にはピンクの花もありました。

12:40 集合写真(背景を変更・合成しました)



13:20 正福寺(しょうふくじ)

正福寺には、徳川 4 代将軍・家綱が、将軍に就任する以前の慶安 2 年(1649 年)に宿泊したという記録が残っている。



境内には大きな「日光道中道標」がある。

「義賑窮餓之碑(ぎしんきゅうがのひ)」

天明 3 年(1783 年)、浅間山の大噴火により大飢饉が発生した際、幸手宿の豪商 21 人が金銭・穀物を出し合い、幸手の民を助けたとのこと。

この碑はこれを讃え建てられた碑で、埼玉県指定文化財



13:40 聖福寺(しょうふくじ)

創建は約 600 年前で、室町時代の応永年間(1394~1428 年)。江戸時代の将軍の日光社参の折りや、天皇の代理として東照宮例大祭に参拝した例幣使(れいへいし)の休憩所に用いられた。

唐破風の造りの山門「勅使門(ちよくしもん)」は、当時、将軍と例幣使以外は通行できなかったとのこと。

勅使門

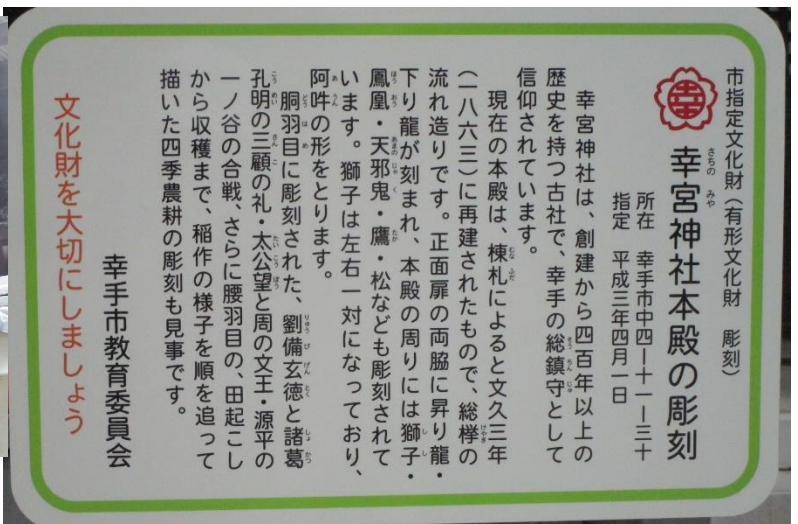
唐破風がついた四脚門で、扉には菊の紋様が刻まれている。



14:00 幸宮神社



幸手駅への帰り道、幸手の総鎮守としてまつられている幸宮神社(さちのみや)へ立ち寄った。



14:25 幸手駅前に到着



皆さんお疲れのご様子、電車の時間まで小休止。

10月の初旬、遠くの台風18号の影響でお天気が心配でしたが、大きな崩れがなく無事にハイキングを終了することが出来ました。皆さまお疲れ様でした。またご協力ありがとうございました。

日光街道幸手宿の街並み約1kmの間に天皇行在所跡、一里塚跡などの碑がありましたが、宿場を直接に思い起こすような建造物はありませんでした。しかしながら、旧街道の周辺の所々に、古くからの家屋が点在しており、宿場町の面影は十分に残っていました。

権現堂堤では、猛暑の影響が、花見の我々にとって幸いし、曼珠沙華が満開で、想像以上に見事な景色を見ることが出来ました。皆さまも堪能して頂けたかと思います。

コース距離では6kmくらいでしたが、万歩計では約1.6万歩でしたので、実質10km以上の歩行距離であったかと思います。何はともあれ、皆さん無事に完了できて良かったです。参加の皆様、大変お疲れさまでした。

次回は、11月1日(金)「高崎・観音山のハイキング」が美術工芸科の担当で開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

記:加藤 治朗